

一昔前の保育者は、よく、こんなことをつぶやいていた。「夏休みが終ると、子どもが一回り成長する。」「お休み前の混乱が嘘のように、彼らはしつとりと落ちて着いて、秋の充実期に歩み入る」と。

然し、最近の子どもたちは変わった、という声が開かれる。「夏休みの前も後も、さほどの変化がない」、と言うのだ。つまり、一学期の終りから、何となく形が出来ていて、それらしく生活している。だから、お休みが間に挿まっても、どうということもなく、いつも同じような生活が、淡々と続くらしいのである。

幼い人たちの生活のありように、もし、こんな囁きと対応する面があるとすれば、それは、彼らが、非常に早くから自分なりのありかたを獲得し、それを頑なまでに「形」として身につけてしまっていて、状況の変化とかかわりなく、自

分のペースでそれを押し通していくと言うことである。

まわりの様子が、何やらうきうきとざわついていれば、それだけで陽気になり、周囲に不幸の影が漂えば、体中が悲しみのかけりを帯びる。世間と自分の間に境界のない、こんなありようが、かつては幼児の特性とされていた。それを思うなら、彼らがこうして、自分を孤島のように囲われた壁の中に閉じこめるといふ、最近の傾向をどう考えたらよいであろうか。世界中に遍在し、あらゆるものと共存するという至福の時代が、早々と幕を降ろすのだから……。

それは、一面から見れば自我の確立であり、同時に、長い孤独の始まりでもあろう。彼らもまた、困難な時代を生きていることに、鈍感であってはなるまい。

(H)

幼児の教育

第八十巻 第九号

九月号

◎ 定価二七〇円

昭和五十六年 八月二十五日 印刷

昭和五十六年 九月 一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 発行人 津 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎ 本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良品がございましたら、おとりかえいたします。